



# 裾野市内循環線の利用状況把握について

1. 新旧バスルートの利用者数の比較
2. 『どこから乗って、どこで降りたか』の自動調査の検討

# 新旧バスルートと比較エリア

## 旧ルート



## 新ルート



7エリアを比較

- 青葉台エリア
  - 富沢エリア
  - 千福が丘エリア
  - 岩波エリア
  - 重複エリア
  - 買物エリア
  - 病院エリア
- バスの運行について  
富士急シティバス株式会社本社営業所  
055-921-5367
- 本運行の廃止バス停
- 本運行の短縮ルートバス停

- 青葉台エリア
  - 千福が丘エリア
  - 富沢エリア
  - 岩波エリア
  - 重複エリア
  - 買物エリア
  - 病院エリア
- 本運行の短縮ルートバス停
- 東西線
- 南北線
- 東西線 & 南北線



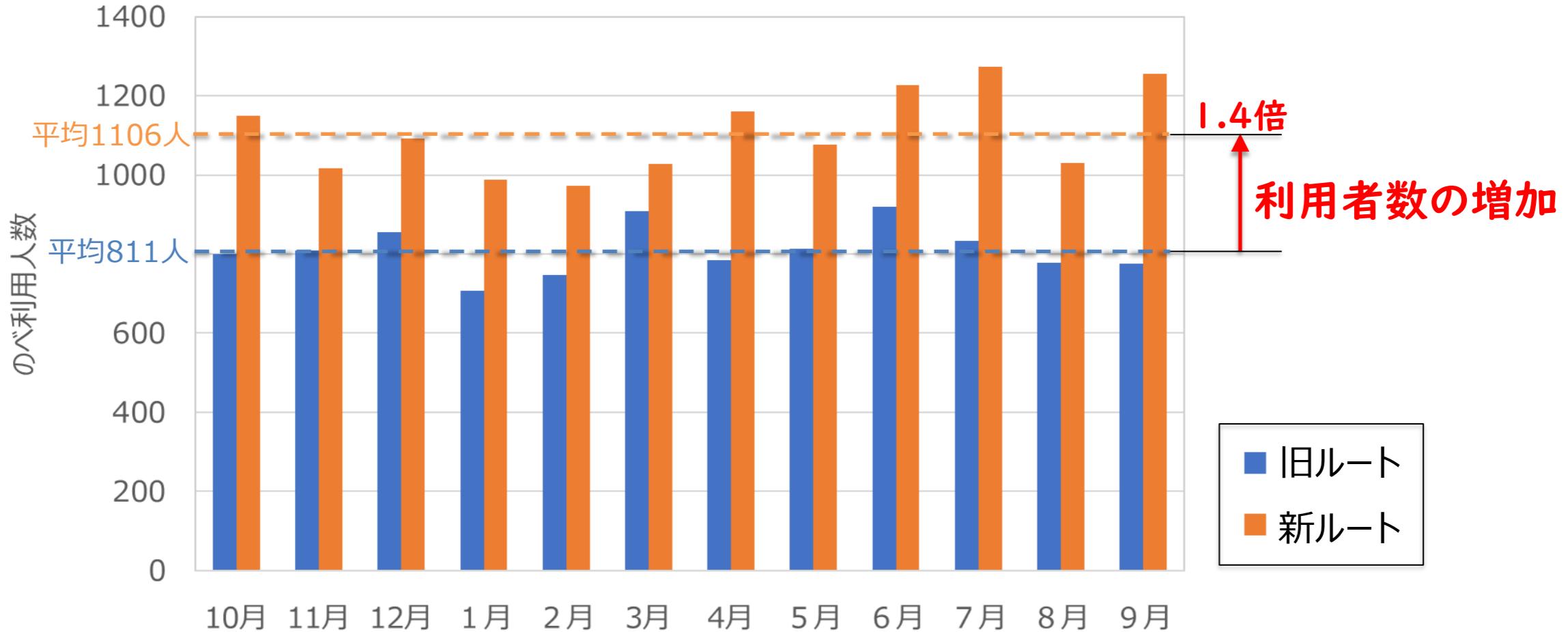
Frontier Research Center  
TOYOTA

24.10に改編した  
裾野市内循環線の  
利用状況を調査

# 新旧バスルートの利用者数比較 (月ごと)

データの結果

旧ルート: 2022.10~2023.9  
新ルート: 2024.10~2025.9



利用者数は約1.4倍に増加

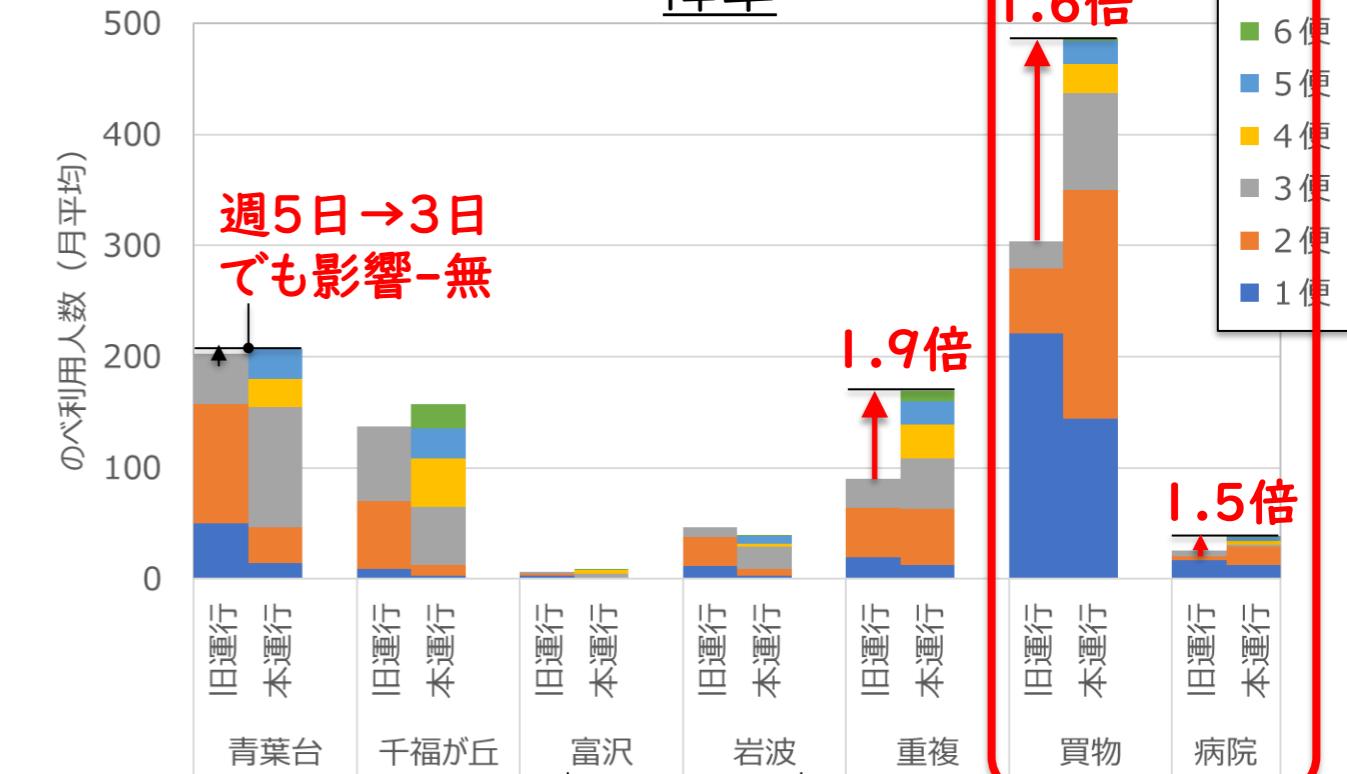
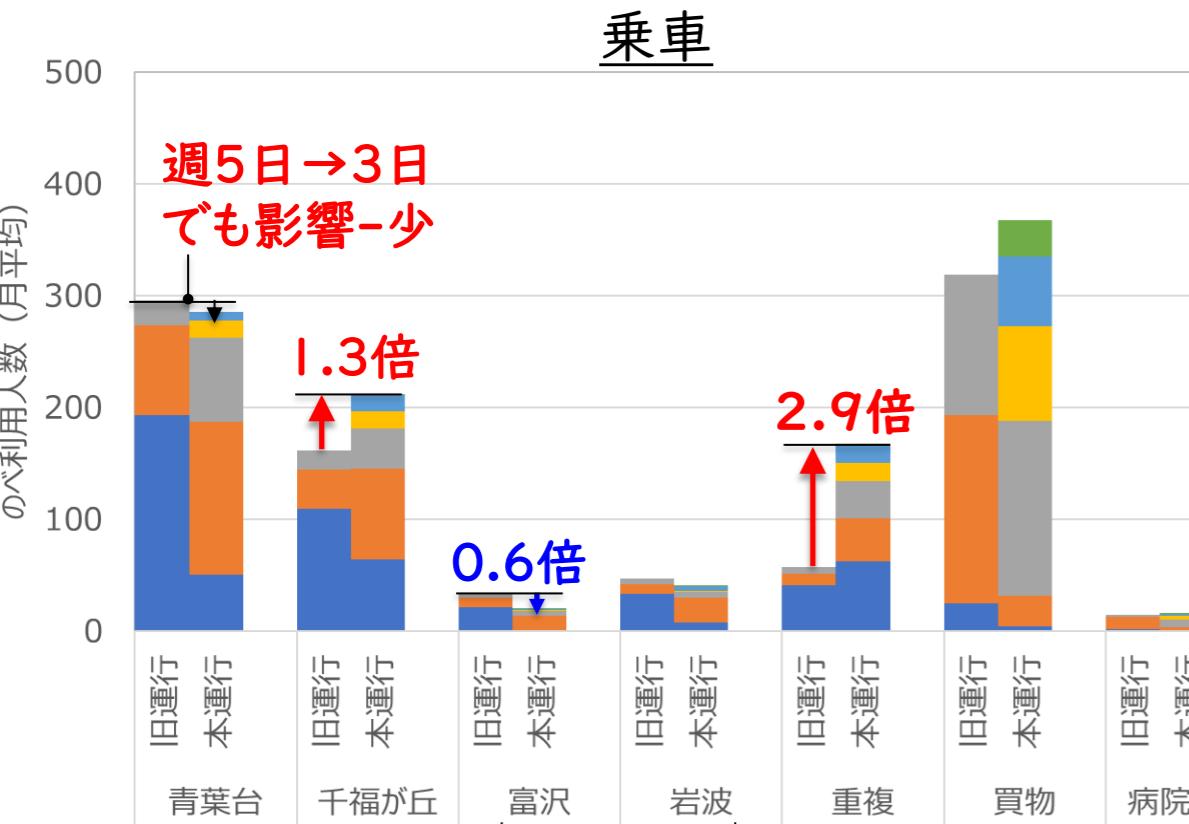
# 新旧バスルートの利用者数比較（エリアごと）

データの結果

赤字: 改偏の効果

青字: 改編の課題

旧ルート: 2022.10~2023.9  
新ルート: 2024.10~2025.9

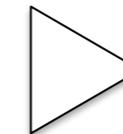


買物・病院エリアへの利用が1.5倍以上に増加

# 『どこから乗って、どこで降りたか』の自動調査の検討

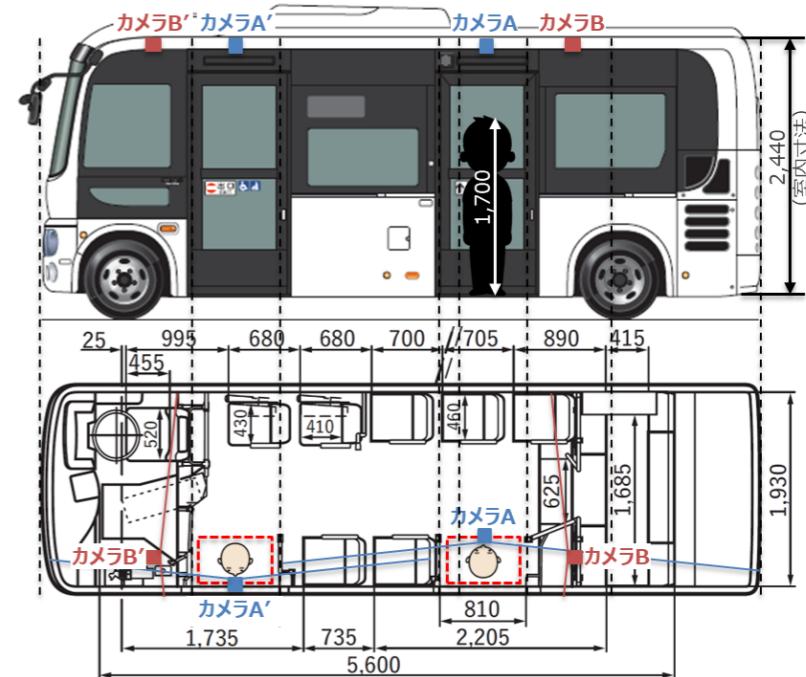
# 運転手さんが運行時にメモする バス停ごとの乗降人数

課題：どこから乗って、どこで降りたか  
わからない



# カメラを使って 乗車→降車の自動調査を検討

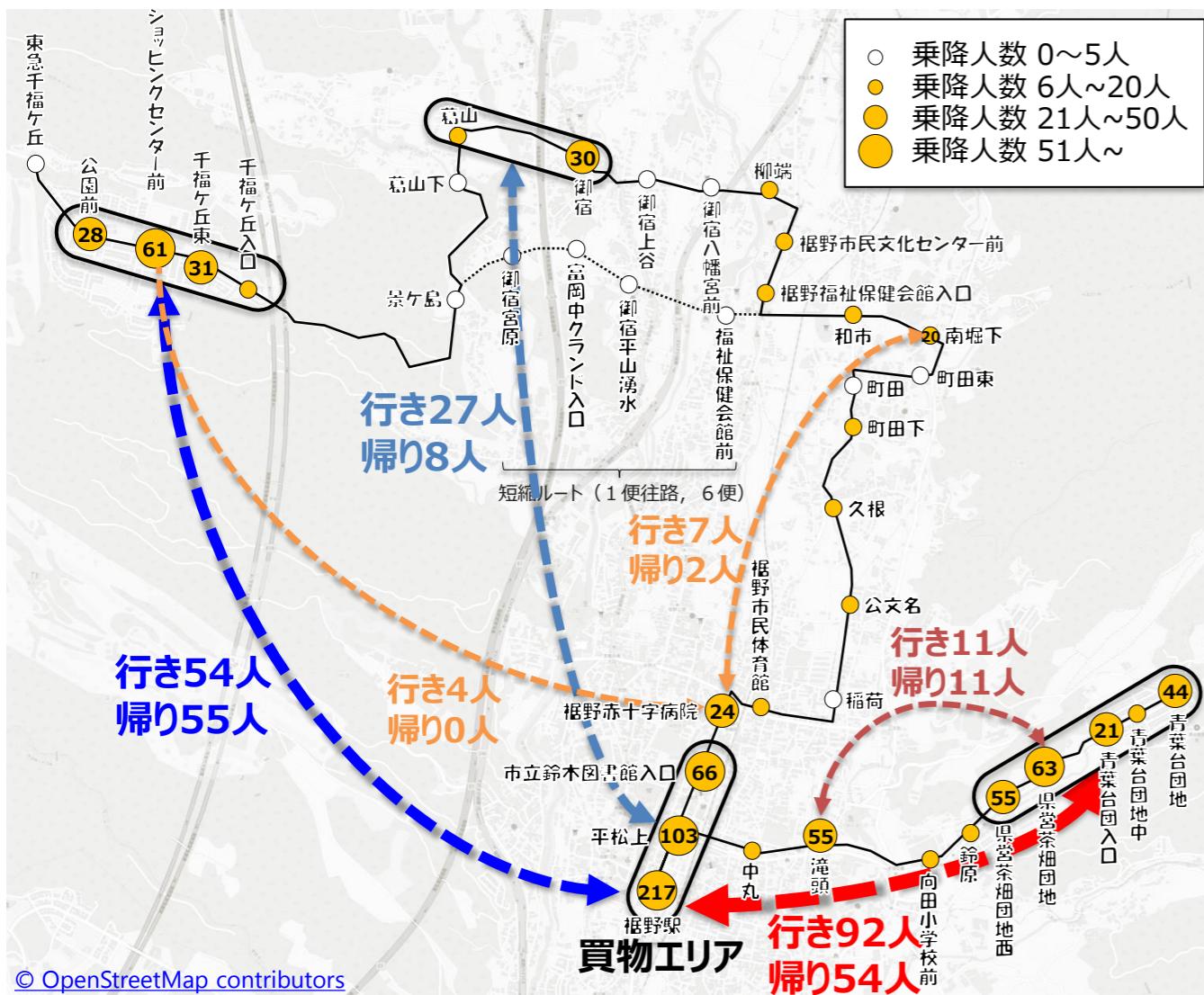
※協力：富士急シティバスさん



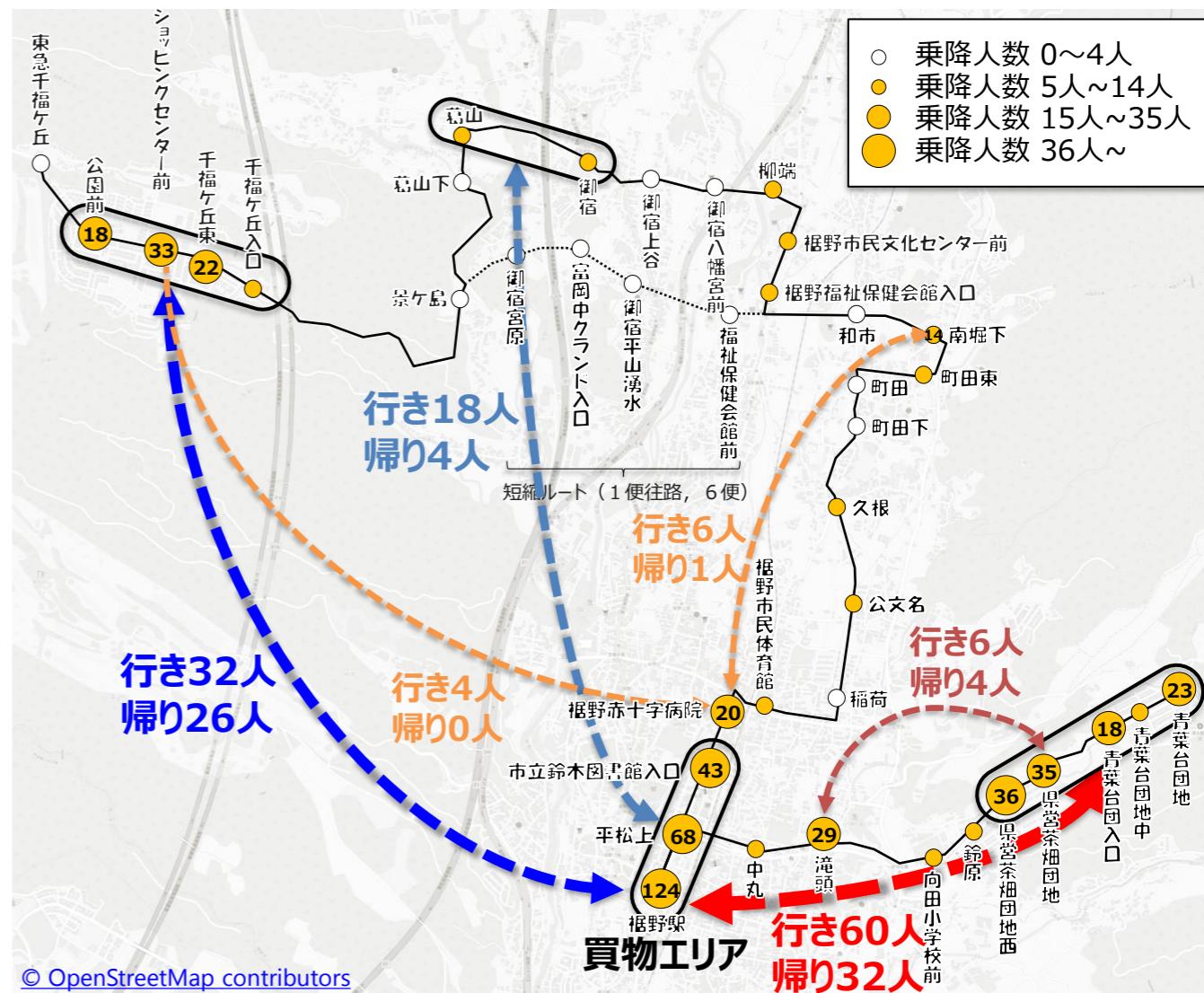
# 主な利用者の動き（2025年8月、東西線）

データ取得できた11日間

## 動画を目視によって確認(正解データ)



## 動画を自動解析（約7割の正解率）



利用者の動く傾向が把握できるようになった

## 1. 新旧バスルートの利用者数の比較

- 裾野市内循環線の改編により、利用者は約1.4倍に増加
  - ・特に、買物・病院エリアの利用者数が増えた
- 南北線（富沢、岩波エリア）は利用者が少ない

## 2. 『どこから乗って、どこで降りたか』の自動調査の検討

- カメラを使って自動調査し、利用者の動く傾向を掴むことができるようになった